

2019年度 社会福祉法人福浜会あにまあと
障害児通所支援(児童発達・放課後等デイサービス)評価

利用者(保護者)アンケート14名回答

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されている	13	1	0	
	②	職員の配置数や専門性は適切である	12	2	0	・利用者数により少ない時もあるのでは。
	③	設備等はバリアフリーの配慮がなされている	14	0	0	
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっており、こどもたちの活動に合わせた空間となっている	14	0	0	
適切な支援の 提供	⑤	こどもと保護者のニーズや課題を理解した上で、個別療育計画が作成されている	14	0	0	
	⑥	個別療育計画に沿った支援が行われている	14	0	0	
	⑦	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	14	0	0	
	⑧	他事業所や、障害のないこどもたちと活動する機会がある	7	3	4	・そのあたりはよく知らないの
保護者への説明等	⑨	運営規定、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明がされている	13	1	0	
	⑩	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている	10	3	1	・知らなかった。
	⑪	日頃から情報交換ができ、発達状況や課題について共通理解ができています	14	0	0	
	⑫	面談、育児に関する助言等の支援が行われている	14	0	0	
	⑬	保護者会等の開催等により、保護者同士の連携が支援されている	4	9	1	・まだ参加したことないので
	⑭	相談、申し入れ等には迅速かつ適切に対応している	14	0	0	
	⑮	こどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされている	14	0	0	
	⑯	定期的に会報、ホームページ等で活動概況や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を発信している	11	3	0	
非常所等の	⑰	個人情報に十分注意している	14	0	0	
	⑱	緊急時・防犯・感染症等のマニュアルを策定し、保護者に周知、説明している	8	6	0	
満足度	⑲	非常災害に備え、定期的に避難訓練等が行われている	6	8	0	
	⑳	こどもは通所を楽しみにしている	13	1	0	
	㉑	事業所の支援に満足している	14	0	0	

2019年度 社会福祉法人福浜会あにまあと
障害児通所支援(児童発達・放課後等デイサービス)評価

職員アンケート7名回答

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員は児童活動室等スペースに対して適切である	1	4	2	<ul style="list-style-type: none"> 敷きマットが密集しすぎている時がある。感染防止で部屋分けは良いと思う。 人数が多い時は、部屋と、ホールに分けるなど。今の所は何とか出来ているが。 活動後の整理整頓が不十分な時がある。
	②	職員の配置数は適切である	2	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 定員5名を超えている時の職員追加、配置を明確にしてほしい。現在曖昧。 職員が人数が手薄な時には、生活介護の職員や、法人内の職員、ボランティアに応援をお願いしている。 なるべく手が空いているときはフォローに入りたいと思うが、うまく回れていません。 生活介護と協力できている。
	③	設備等はバリアフリーの配慮が適切になされている	2	5	0	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子利用者さん想定的设计で、歩行できる利用者さんのための手すりがほとんどないのが難点。 歩行の練習をする際は、手すりがもう少し付いているといいと思った。
	④	生活空間は清潔で、心地よくすごせる環境になっており、こどもたちの活動に合わせた空間となっている	5	1	1	<ul style="list-style-type: none"> フロアが清潔とは言えない。トイレ、汚物室、外などそのままの靴でフロアも歩くため、本当は荷物も敷物もフロアに置きたくない。唾液もよく落ちているし、舐める子這いつくばる子などにとって不潔。もっと家のようにきっちり外と中を明確にしたい。
業務改善	⑤	業務改善のためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 会議で問題点や改善点を出し合い、解決に向けての話し合いや実際に行っている振り返りもしている。 ケース会議等で個別療育計画の立案、見直し、まとめについての話し合い、日頃からの報告、連絡、相談で、「チーム」を意識している。 PDCAサイクルを理解しているか不明。
	⑥	保護者用の評価表を活用し、保護者等の意向の把握、業務改善につなげている	3	3	1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの評価表にも目を通すようにする。 職員間で周知し、全てとまではいかないが、次年度に活かしている。
	⑦	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公表している	4	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ホームページがわかりにくい。

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	4	
	⑨	職員の資質向上のため、研修の機会を確保している	6	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 施設内での研修が少ない。 法人内研修、外部での研修への参加を積極的に行っている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別療育計画を作成している	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> アセスメント表、個別療育計画の書式を見直しし、利用者さん(家族)も職員も把握しやすいものに変更した。
	⑪	こどもの適応行動の状況を図るため、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	3	0	
	⑫	個別療育計画には、ガイドラインで示す内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、具体的な支援内容が設定されている	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの読み合わせは行ったが、それを意識した計画になっているかは不明。
	⑬	個別療育計画に沿った支援が行われている	6	1	0	
	⑭	活動プログラムの立案はチームで行っている	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 月案を立てて行っている。 活動案の作成について、チームで行っている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> その月の行事やイベントを取り込んでいる。 月ごとに季節を感じられるような、活動も取り入れている。 できる限り利用者さんの意向も取り入れつつ活動しているが、固定化していないとも言い切れない。
	⑯	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 学校休校日だと、利用人数も多くなるため、課題設定して活動ができる日ばかりではない。
	⑰	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別療育計画を作成している	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 個別、集団とメリハリをつけて活動できるよう意識している。
	⑱	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、支援内容や役割分担について確認している	4	3	0	<ul style="list-style-type: none"> 支援になってから、バタバタするのが目立ったりすることもある。
	⑲	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3	0	<ul style="list-style-type: none"> 少しでも気になったことがあればその日のうちか別日に他職員と話すようにしている。
	⑳	正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	
	関係機関や保護者との	㉑	定期的にモニタリングを行い、個別療育計画の見直しの必要性を判断している	6	1	0
㉒		ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	4	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの意識は薄い気がする。
㉓		サービス担当者会議には、そのこどもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している	4	3	0	
㉔		地域の保健、行政、医療、障害福祉、保育、教育機関等との連携(情報共有、連絡調整)を適切に行っている	5	2	0	<ul style="list-style-type: none"> 連携がとれているのかわかりにくいときがある。支援会議が定期的にあると他職種との連携もわかりやすい。

	②⑤	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等との連絡体制を整えている	5	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・指示書をもらい行うケアの内容等は把握しているが連絡が直ではないためいざという時戸惑いそう。 ・主治医とは、利用者さん家族を通じての情報交換を基本とし、必要があれば通院付き添い等で情報収集をしている。
	②⑥	移行支援として、保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所、小学校、特別支援学校等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・移行支援会議への参加はしている。
	②⑦	学校を卒業し、障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、支援内容等の情報を提供している	5	2	0	
	②⑧	児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3	0	
	②⑨	保育所、認定子ども園、幼稚園、放課後児童クラブ、児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の必要性を感じており、実現に向けて動いていく。 ・月1でもいいので、近くの子ども園、小学校との交流があったらいい。
	③⑩	地域自立支援協議会等へ積極的に参加している	3	3	1	
	③⑪	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、発達状況や課題について共通理解を持っている	5	1	1	
	③⑫	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニングの研修等の受講も検討。
保護者への説明責任等	③⑬	運営規定、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	4	0	
	③⑭	ガイドラインが示すねらい及び支援内容と、これに基づき作成された個別療育計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別療育計画の同意を得ている	6	1	0	
	③⑮	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	1	
	③⑯	保護者会等の開催により、保護者同士の連携を支援している	1	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会がないため学校以外での繋がりがわかりにくい。 ・保護者会はない。学校での保護者会はあるため、あえて当事業所で設ける予定はない。
	③⑰	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合には迅速かつ適切に対応している	7	0	0	
	③⑱	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・あにまあと通信を発行しているが、必要な情報が網羅されてはいないと感じる。

非常時等の対応	③⑨	個人情報には十分注意している	7	0	0	
	④⑩	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体の行事はあるが、あにまあとの周囲の地域の方々との交流がない。 ・行事によっては地域に発信しているが、十分ではない。
	④②	緊急時・防犯・感染症等のマニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に向けてのマニュアル等はほぼない。
	④③	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	1	
	④④	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握している	6	1	0	
	④⑤	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	2	0	
④⑥	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別療育計画に記載している	4	3	0		
④⑦	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーの有無を問うてない。 ・指示書はないが、家族との情報交換のもと対応している。 	
④⑧	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0		

～利用者(ご家族)アンケート・職員アンケートを実施して～

利用者(ご家族)の満足度は維持できているが、細部に目を向けると、緊急時の対応(災害・感染症等)についての情報の不透明さや、家族支援についての不十分さ等が垣間見える。これは、昨年度のアンケート実施後の分析でも取り上げられた。事業所の様々な情報について、『聞かれたらお答えをする』ではなく、事業所から発信していく努力が必要であると考え。

また、今回のアンケート実施で、衛生面の問題が取り上げられた。あにまあとは、重症心身障害児対象の事業所であり、日常的に医療的ケアを必要とする利用者さんが多い中で、不衛生な状態はあってはならない。より意識をした環境整備が必要であるため、早急に改善策を練っていく。

児童発達支援ガイドライン・放課後等デイサービスガイドラインについては、支援の基本となるため、全職員の周知が必須である。新しく配置された職員もいるため、再度読み合わせ・検討の機会を設け、より良い支援を行えるようにしていく。

そして、地域交流については、「地域に根ざした事業所」を目指すため、地元住民や地域の幼稚園・保育園・こども園、学校とも、積極的な交流を行っていくことが重要と考えている。こどもたちの社会性を育てていくためにも、具体的な計画を立てていきたい。